

子どもの権利を基盤にして まちに子どもを守る体制としくみをつくる

—CAP(キャップ)／子どもへの暴力防止の取組—



#子どもへの暴力防止

#虐待防止

#予防教育

#子どもの権利

NPO法人CAPセンター・JAPAN

理事長 伊藤嘉余子 (大阪公立大学)

予防教育- CAP(キャップ)プログラム(子どもへの暴力防止プログラム)

Child チャイルド
Assault アサルト
Prevention プリベンション

めざしていること

子どもが、

人権侵害の被害者・加害者・傍観者にならない

⇒心のレベルの**基本的人権** **安心・自信・自由**



これまでの活動ー日本では今年27年目

- 1978年 アメリカのレイプ救援センターがプログラムを開発。世界11か国で実施。
- 1995年 日本での本格的な活動が始まる(実践者の養成講座開始)。
- 1998年 CAPセンター・JAPAN設立。2001年法人化。
- 2021年度末 **日本の拠点(CAPグループ)は約100。**
- (2022年3月末) **幼稚園・保育所・小学校・中学校・特別支援学校・児童養護施設・障がいのある子どもの入所施設を中心に、おとな約218万人、子ども約365万人、計583万人以上が参加。**

CAPは3方向のアプローチで地域全体に働きかける(地域のCAPグループが提供)

子どもの権利を基盤に子どもとおとなが一緒に、子どもの安心・安全を守る

●教職員ワークショップ(専門職対象)

●おとなワークショップ(保護者・市民対象)

} 2つの
おとな対象ワークショップ

*子どもワークショップ前に、おとなワークショップを行う。

*おとなワークショップは、単独で実施できる。

●子どもワークショップ(トークタイムを含む)

教職員ワークショップ

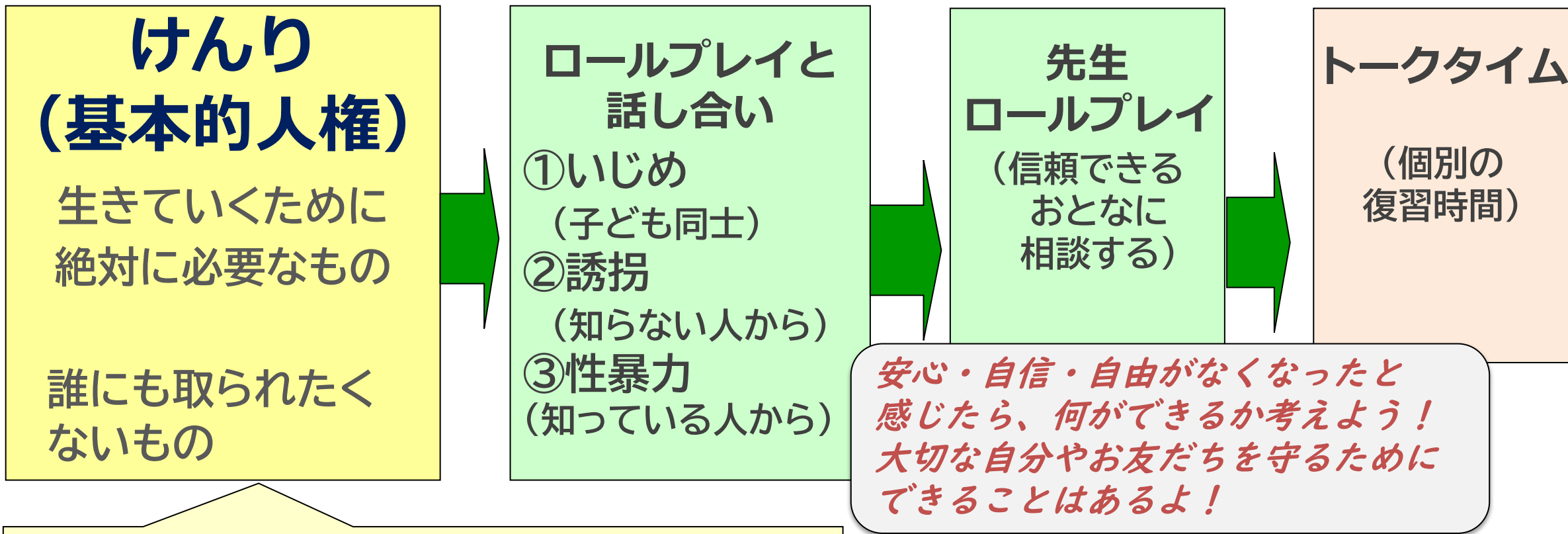


子どもワークショップ
(1クラス単位)

おとなワークショップ



例)CAP小学生プログラムの流れ(小学生プログラムは1日約70分+トークタイム)



子どもに特別に大切な3つの権利

安心 **自信** **自由**

安心・自信・自由は
大切な自分の心とからだ、
権利を守るめじるし

※発達段階やニーズに応じて、
・幼児期
・学童期
・中学生
・障がいのある子ども
それぞれへのプログラムがある。

CAPに参加した子どもの声 —トークタイムやアンケートから

- 成果
- 自分の持つ権利・他者の持つ権利について知る。生き生きと本来の力を発揮できるようになる。
- 問題解決力・コミュニケーション力を高める。
- 多様性を認める。



自分の気持ちを考える良い機会だった。相談することは自分の暗い気持ちをすっきりさせてくれる大事なことだと思った。

わたしもけんりを
持っていると言って
勇気が出た。



前から人の権利を奪っていたことに気がついた。奪われた人の感情などが劇ですごくわかった。みんなが嫌な気持ちになることもわかった。これからはうばわないようにしたい。

自分の権利はとても大事だと思ったし、人の権利も大事だと思いました。安心できないと落ちついて生活できないのもわかりました。



クラスの友だちから「あの子を無視しよう」と誘われたけど、「私はきれいじゃないから無視しない」と言えました。

今まで、いろいろなことを自分ひとりで考えないといけないと思っていたけど、友だちや先生に話していいことがわかった。

今までは相談しても意味がないと思っていたけど、相談した方が自分がほっとすることがわかった。



ぼくも権利をもつてるとわかった。元気が出た。

子どもは無力ではありません。
子どもは権利行使の主体です。
そのことを子どもたちが知ることが必要です。
知らない権利は使えないし、守れません。



CAPプログラムは、子どもの権利を知らせ、

- ①虐待・いじめ・体罰・性暴力などから自分を守るための知識とスキルの習得
- ②意見形成・意見表明ができる、子どものセルフアドボカシーをめざします。

CAPに参加したおとなの声

■ 成果

- “子どものもしも(危機的状況)”への対応力が高まる。
- 子どもが相談しやすい環境が整備される。
- 子どもの権利を意識して関わるようになる。
- おとな同士がつながる。

子どもへの肯定的な働きかけの
大切さを再確認した。

わが子が学校で子どもワーク
ショップを受けた後、ずっと不安に
思ってきたことを話してくれた。

子どもが親からの虐待を話すことが
でき、児童相談所や子ども家庭課と
学校も支援しています。

CAPセンター・JAPAN Webサイト



親や学校からでなく、地域の第三者の方から
子どもにとって大切な話をしていただけるとは、
貴重な経験です。とても良い経験でした。

CAPを通して、自分をふりかえり、
子どもに安心・自信・自由のよい関
係をつくっていかうと思った。

子どもたちの力を信じるのが、
大切だと感じた。相談しやすい
場づくりを心がけたい。

昨今、「生きる力」「生き抜く力」が求められて
いる。その力を培うには安心して
言いたいことが言える雰囲気大切。
CAPはその雰囲気づくりの一助になると思う。⁷